

ニーズレター

発行日 2025年1月16日

特定非営利活動法人 グループホームネット香川

新年号



しっぽうどん

もくじ	頁
○ 巻頭言	2-3
・ これからの福祉	
○ 理事からの声	4
・ リカバリー	
○ 利用者からの声	5
・ グループホームに出会って	6
・ 避難訓練	
○ ホームワーカーからの声	7
・ 新人研修を振り返って	
○ 事務局だより	8
○ 編集後記	8



これからの福祉

副理事長 河野 幸子

謹んで新年のご挨拶を申し上げます

2024年度の総会後の理事会で互選の結果、副理事長になりました。よろしくお願いいたします。

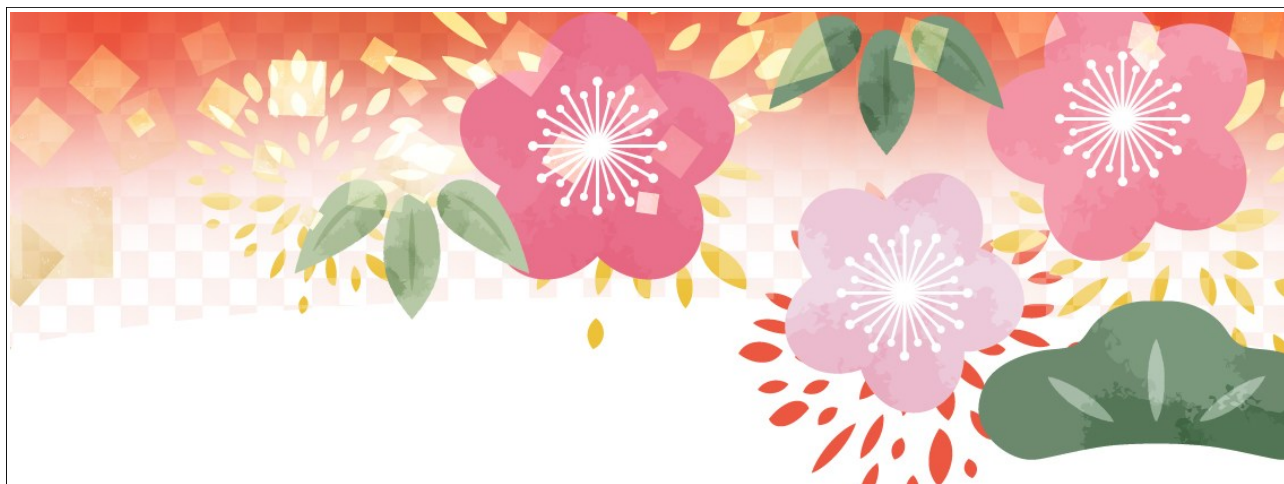
2024年1月1日16時10分。石川県の能登半島地下16kmを震源とした地震は、多くの方々に「災害はいつ起こるかわからない」という教訓を改めて感じさせる出来事でした。気象庁の発表によれば、この地震のマグニチュードは7.6、内陸部で発生する地震としては稀にしか発生しない大きさだったといえます。被災された方々の生活が1日でも早く復興することを願っております。

2024年度から障害福祉サービスにおいてBCP策定が義務付けられました。BCPとは、災害などの緊急事態における企業や団体の事業継続計画（Business Continuity Planning）の頭文字をとった言葉です。BCPと災害対策は混同されてしまいがちですが、明確な違いがあります。BCPは、防災対策のみならず、感染症などあらゆる緊急事態に遭遇した場合に、損害を最小限にとどめつつ、事業の継続や早期復旧ができるように具体的な方針・指針を定めた計画のことをいいます。

例えば、グループホームで防災対策として、避難計画や備蓄品を準備します。BCPでは、それに加えて被害（建物が倒壊するなど）が出た後も入居者が安全に生活できるように想定して計画することが求められるということです。

これまで当法人は災害や感染症拡大の想定に備え、マニュアルを作成する等の準備をしてまいりましたが、これからはそういったことを明確に文書化し、職員間で共有し、それらをもとに訓練や研修を行うことで事業を継続していくことが必要だと思います。





とはいえ、日本は世界的に見て自然災害の多い国です。政府の地震調査委員会の2024年1月の調査によると、南海トラフ地震が発生する確率は10年以内で30%程度、30年以内で70~80%程度、50年以内では90%もしくはそれ以上の確率で発生すると発表されています。まだ先のこととは考えず、いつ起こってもおかしくない状況のため、BCPをはじめとした早急な対応が必要だと感じます。

また、2024年度は報酬改定が行われた年でもありました。障害福祉におけるBCP策定義務化と報酬改定は「障害のある利用者が必要な支援を適切に受ける」というサービスの安定性と質の向上につなげるためのものです。私たちは一人ひとりの可能性を信じ、努力を継続していくことが障害福祉サービスの発展につながることを考えます。個々の特性や状況を尊重し、適切な支援が受けられる社会であることが、今改定の大きな焦点になるような気がします。

巳年の2025年は新たな夢や目標に向かってスタートする最適な年とされています。皆さまにとって実りある1年になりますよう祈念いたします。

本年もよろしくお願いいたします



リカバリー

理事 細谷 賢嗣

私は、法人の理事として時折現場のスタッフの方々とお話しをすることがあり、その際に決まって出てくる悩みとして何処までの支援をすることが正解なのか？具体的には何が正しくて何がNGなのか？

もちろん明確な答えなどなくてその人が自立するために本当の意味でためになること。その人のQOLの向上に役立つことなどとお話ししますが、なんだか抽象的な言い方で私にはしっくりときません。

我々は、医療関係者ではないので病名を付けることも薬を出すこともありません。障害がある人が地域で自立するための生活支援をすることが役割です。自立するための生活支援で大切なことはなにか、私たちの支援の核となるような物はなんなのか？と考えたときにふとある言葉が浮かびました。

「リカバリー支援」という言葉です。

リカバリーは精神疾患がある患者、あるいは精神保健医療福祉サービスを利用する当事者自身が歩む「回復のプロセス」であり、病気の前の状態に戻るということを意味するものではありません。

リカバリーの主役は常に本人で、家族や支援者が決めるものではありません。そのリカバリーを支援するためには、当事者の「主体性」や「希望」を尊重し、信頼関係や協力関係を築くことが最も大切になります。そこで、当法人は入居者の希望や目標に寄り添って、ストレングス（強み）モデルやレジリエンス（回復力）などを軸とした支援することを考え、個別に必要な支援計画を作成しサービスを提供しています。

私たちは入居者のリカバリーを常に応援し、そのプロセスを共に歩んでいきます。

病気を治すという関わりではなく、入居者自身が定めた目標に向かうプロセスと一緒に歩む支援「リカバリー志向」という視点を大切にしながら関わる支援がいちばんだと私は思います。



利用者からの声

グループホーム コーポビアーズに出会って

ペンネーム 由田歩

グループホーム コーポビアーズでの生活について書いてみようと思います。

僕のグループホームでの生活は、6年を過ぎようとしています。

その間にいろいろなことがありました。グループホームの移転や入居者の方の入れ替わりなどです。僕自身は、それらのことは良い経験になりました。人との付き合い方や距離の取り方などが学びました。自分の部屋をきれいに保つ大切さも学びました。もし、グループホームに入居していなかったら、それらのことを学べなかったと思います。

グループホームに入る前は、7年間アパートを借りて一人暮らしをしていましたが、すごく孤独でした。周りの人達は学生さんが多くて、付き合いもなかったです。すごく気を張って、周りに迷惑がかからないように、音をあまり立てないように気を付けていました。あまり音を立てないように掃除機も使わずに、ホウキで掃く程度でした。だから、部屋も汚かったです。その点、グループホームは周りが知った方たちなので 安心して掃除機を使い部屋を清潔に保っています。今は、孤独でもありません。

グループホームでの生活は人間らしさを取り戻す、良い経験にもなっています。今は幸せです。



避難訓練

ペンネーム 豆大福

先日、グループホーム内で避難訓練をしました。設定は、世話人さんのいない時間、夜の7～9時。震度7の地震、津波もくるといふものです。これは、リアルな避難訓練だなと挑みました。

避難訓練、まずは共同部屋に皆で集り、そこから決められた避難所まで行くというものでした。家の周りは高いマンションなどがありますが、オートロックや階段に鍵がかかっているのでは、一般人は入ることができないのです。それで私は散歩がてら避難所を探していたら、グループホームの近所に24時間営業のジムを発見。しかも避難所になっているんです。今回の避難訓練の場所にいいだろうと提案しました。近くのホテルも避難所にはなっているけど、ホテルだってそんな新しくないから、私はあえて世話人さんに「このジムにしたい」といって、今回の避難場所に選んでもらいました。

なんでホテルを選ばなかったかという、それは、そこも崩れる恐れがあったから。近くでいいけど、そのホテルだったら地震で倒れたり、ホテルだから調理場で火を扱うから、火災の恐れもあるから、いくつか探しとかなないといけないということを知ってほしかったからです。

実際、避難訓練を終えて「こんなところに避難したくない」という人もいました。それはそれでかまわないけど過去の地震被害を振り返ると、阪神淡路は火災が多く、東日本は津波、建物崩壊、色々なことが想定されるのです。そうすると、いくつか避難するところは頭に入れておかなくてはならない。夜なんかは暗くて怖くても自分の命を守らなくてははいけないこと。日中なら明るくて、避難所も沢山あるけど、夜のことも考えとかなないといけないと思いました。

皆さん、地震はこないだろうとか、津波はくるのかなとか、未来のことはわからないけれど、もしものときに備えることも大事だと思います。

グループホームで暮らしているから、こうやって避難訓練を体験できます。実家暮らしなら避難訓練なんてしてないし、そもそもそこまで考えてもないだろうから訓練ができて、ありがたいなと思います。改めて、避難訓練ができてよかったなと思います。



ホームワーカーからの声

新人研修を振り返って

ホームワーカー 住田 真由美

私がここグループホームネット香川にお世話になって早いものでもう3ヶ月が経ちました。職員の方や入居者の皆さんにとってもよくしていただき、毎日があっという間に過ぎていきました。理事長をはじめ、理事の方々による新人研修は本当に勉強になり、自分の今の年齢で勉強させていただけることはとてもありがたいことだと思っています。

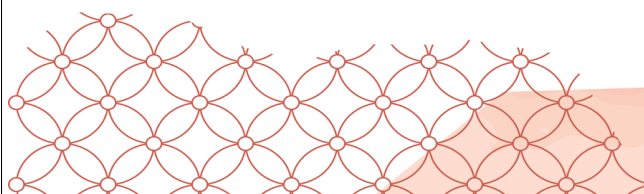
この研修の中では「相手を変えることは難しいが、自分が変わることはできる」という言葉がとても心に残りました。そして、入居者さんに対しての言葉がけの大切さや、明るい表情でゆっくり話すこと、丁寧に繰り返し話すこと、入居者さんの良いところを見ること、その人にいちばん響く話し方をする事などホームワーカーとしてたくさんの大切なことを教えていただきました。

また、先輩ホームワーカーからは「なぜこの支援を行なうのかを説明できることが必要である」「入居者主体で動くことの大切さ」など様々なことを教えていただきました。自分だったらできるだろうか、自分だったらこういうとき何と返すだろうか、と考える場面が研修中に何度もありました。その度に先輩ホームワーカーに質問し、わからないときはすぐに答えを出さずに一度立ち止まって入居者さんに聞いたり、一緒に考えることも大切だと教えていただきました。

初めてグループホームに行き入居者さんにお会いしたとき、とても明るく和やかな雰囲気でお話しかけてくださり、緊張していた私もホッとしていつの間にか一緒に笑っていたことを今でも鮮明に覚えています。その後も各グループホームに行く度に「もう慣れた?」「明日も来る?」とお話しかけてくれる入居者さんにとっても元気をもらいました。

ある先輩ホームワーカーが「共同部屋は自分の家のリビングだと思ってください」と入居者さんにお話ししているということを聞いて、私も入居者さんが自由に出入りし、寛げる場をつくりたいと思いました。また、一緒にいるとホッとできるようなホームワーカーを目指していきたいと考えています。

どうぞよろしくお願いいたします。



事務局だより

事務局 増田 周作

あけましておめでとうございます 本年もよろしくお願い申し上げます

新しい職員が増え、支援体制を変更し、よりよいグループホームの運営ができるよう、新年を迎え新たな気持ちでスタートできればと思います。

少しでも明るい兆しが見える一年であって欲しいと願っています。

また、2024年10月に実地指導があり、大きな問題等もなく無事に終えました。これからも健全な運営を心掛けていきたいと思っています。



編集後記

昨年は北陸地震や豪雨災害等で大変な年でした。被災された方々には、私たちが想像するよりもはるかに心を痛められたこととお察しいたします。高松でも南海トラフが来るかもしれないということで、周囲のスーパーでは一時ペットボトルの水が、何処へ行っても手に入らないということがありました。今年は何事も起こらず平穏無事な年でありますように願っています。

そして、今年からNPO法人グループホームネット香川が発行する機関誌「ニーズレター」の原稿や表紙の写真等を幅広く読者から募集をすることになりました。原稿料としてわずかではありますが、こころばかりのお礼が出せるようにもなりました。昨年と同様、より一層皆様から愛読される機関誌にたく、編集委員も一丸となって頑張ります。どうぞよろしくお願いいたします。

ところで、令和7年の私の目標といえば、好きなことに夢中になり、おしゃべりをして笑いのある楽しいときを過ごすということです。そのためにはたくさんの方々との出会いを求め、継続を肝に銘じ前に進むつもりです。そうすることによって周囲との和、体の健康、こころの健康を維持したいと考えています。

(天満)

(発行) 特定非営利活動法人 グループホームネット香川

連絡先： 香川県高松市成合町559番地15

TEL：087-885-5270 FAX：087-887-5955